

同窓会終身会員について

1996年度より、正会員のうち、年会費5年分(1万円)以上を納入していただいた方及び同年度3月以降卒業の方を終身会員とし、その方には今後年会費を請求しない事となっております。尚、1991年3月時点で敬愛同窓会の終身会員であった方は、当大学同窓会の終身会員とみなす事と致しましたので宜しくお願い致します。

また、終身会費の確認については、いつでも同窓会事務局で確認できますのでお問い合わせ下さい。更に、会費を二重でお振込になられました方には調査の上、返金させていただきますのでくれぐれもご安心下さい。

年会費のお願い

大学同窓会は卒業生の皆様の会費で運営されております。今後、大学をもちたて、同窓会ネットワークを充実させるためには是非しっかりとした財源が必要です。何卒ご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。 ※会費は一口以上のお振込をお願い致します。

会 費

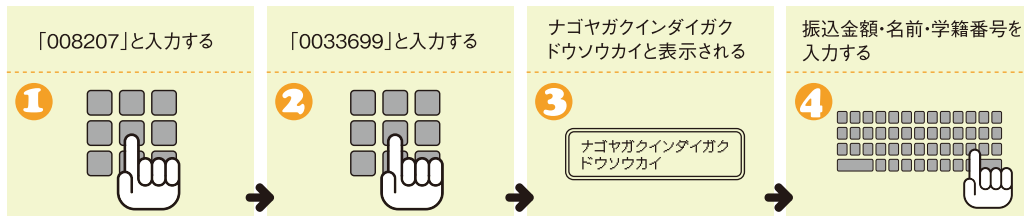
- 年会費一口：2,000 円
- 終身会員費：1 万円
(既に終身会員の方は不要です)

振 込 先

- 金融機関名： ゆうちょ銀行
- 店名： ○八九(ゼロハチキュウ)
- 口座種別： 2 当座預金
- 口座名義： 名古屋学院大学同窓会
- 口座番号： 0033699

1. ゆうちょ銀行からゆうちょ銀行に振り込む場合

振込手数料 無料

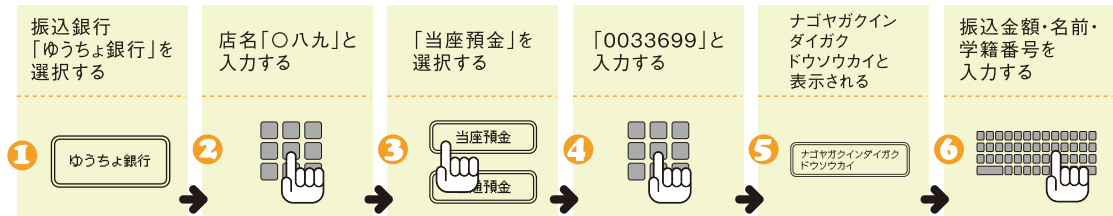


※ゆうちょ銀行の通帳またはキャッシュカードが必要です。 ※窓口でも振込可能です。

振込方法

2. 他銀行からゆうちょ銀行に振り込む場合(ローソン・ファミリーマート等のATM)

振込手数料 あり



※銀行のキャッシュカードが必要です。

思い出のエッセンス

珠玉の「再春」



中山みどりさん
(学籍番号:99F1041)

若い友人ができたとともに、中国語学科に入学したことによって、一筋の人生の伏線を発見したことである。私は中国語を話せるようにという目的であったが、実は中国語の背景に広がる中国文学の魅力に初めて開眼したのであった。名古屋学院で学んだ中国の唐代文学や歴史など、ほんとうに楽しく、今も懐かしく教室の風景が見えてくる。

社会人学生として学んだ「再春」もしだいに遠くなっていく。同期生たちは多忙で充実した年代に入っていることが便りで伝わってくる。一方、三十歳を目前にして、病死した若い友人のことを思うにつけ、初めて知り合ったドイツ語の講座が、明るいひだまりのように見えてくる。「再春」が遠のき始めたのは、この時点でなかったか。指導いただいた佐藤自郎先生との別れも、このあとであった。

そうだ、中国の文学を卒業論文にしようと思って、卒論自体は、「改革開放に向かう中国文学」というテーマにした。

さて、ここらあたりから事態が動き始めたのだ。四年生になって、天津から中国人教師が赴任され、大学院でも指導を受けることになった。なんと、この先生とは、ほとんど年齢が変わらなかった。そのことで、私は修論のテーマを「中国の老年文学」に決め、張学正先生から一冊の本を推薦された。「人到老年」(シエンロン)である。この本には日本語訳はないのであるが、その研究者がいることが検索でわかった。なんと中国・大連の小学校の同級生の姉上であった。同級生はすでに他界していたが、私はその家に遊びに行ったこともある。姉上は妹の子どもたちにも、この奇遇を話したそうである。張先生が推薦した一冊の本が、再会をよんだということになる。

院を終えた後の五月、修論で世話になった張先生をたずねて天津一人旅ができたという行動力も大学で培われたものだろう。